

第1回みやぎ建設産業振興懇談会 会議録（案）

■ 日時 令和5年3月23日（木） 午前10時から正午まで

■ 場所 宮城県行政庁舎10階 1002会議室

■ 資料1：第3期みやぎ建設産業振興プランの中間検証について

資料2：基本目標毎の2年間の取組概要

参考資料1：みやぎ建設産業振興懇談会開催要綱

参考資料2：第3期みやぎ建設産業振興プランの中間検証に係る参考資料集

参考資料3：第3期みやぎ建設産業振興プラン 令和4年度取組状況

参考資料4：第3期みやぎ建設産業振興プラン 重点取組事項

■ 委員名簿（11名出席 2名代理出席）

増田 聡 委員 東北大学大学院経済学研究科教授

有働 恵子 委員 東北大学大学院工学研究科教授

西村 博英 委員 一般社団法人宮城県建設業協会専務理事兼事務局長

（代理 菅原 敬二 一般社団法人宮城県建設業協会技術顧問）

伊藤 俊一 委員 一般社団法人宮城県建設専門工事業団体連合会会長

船山 雅弘 委員 一般社団法人みやぎ中小建設業協会会長

八木橋 雄介 委員 一般財団法人みやぎ建設総合センター事務局長

関 洋一 委員 東日本建設業保証株式会社宮城支店取締役支店長

本田 総一郎 委員 宮城労働局職業安定部職業対策課長

吉田 光宏 委員 仙台市都市整備局技術管理室長

遠藤 秀樹 委員 宮城県教育庁高校教育課長

（代理 佐々木 幸太 宮城県教育庁高校教育課キャリア教育班主幹）

狩野 淳一 委員 宮城県土木部技監兼副部長（技術担当）

■ 会議経過

1 開会

2 挨拶

○宮城県土木部 狩野技監兼副部長（技術担当）

皆様には、御多忙のところ、当懇談会の委員をお引き受けいただき、また、本県の土木・建築行政の推進につきまして、日頃格別の御理解と御協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、本県では、2年目となる「新・宮城の将来ビジョン」や「土木・建築行政推進計画」に基づき、『次世代に「安全・安心」と「活力」を引き継ぐ「持続可能」な宮城の県土づくり』に向けて、各施策に取り組んでいるところであり、推進計画の分野別計画である「第3期みやぎ建設産業振興プラン」では、

「担い手の確保・育成」、「生産性の向上」、「経営の安定・強化」及び「地域力の強化」の4つを基本目標に定め、各施策に鋭意取り組んでいる。

昨今、建設業界においては、少子高齢化に伴う担い手不足や、令和6年度からの労働基準法の改正による時間外労働の上限規制が完全適用され、加えて国際情勢の不安定化に伴う建設資材価格の高騰等もあり、厳しい経営環境に置かれている社会情勢である。

今年度はプラン計画期間の中間点にあたることから、この2年間の取組成果を中間検証し、プラン策定後の社会情勢を踏まえた施策の改善等について、委員の皆様から専門的知見に基づくご意見を伺い、プラン後期2年間の取組へ反映させるため、このたび、当懇談会を設置し、本日、委員の皆様にご参集いただいた。

さらに、令和6年度には第3期プランの最終検証を行った上で、第4期プランの策定を進めていくこととしており、委員の皆様には、今後2年にわたり、ご意見を伺う予定としている。忌憚のないご意見をいただきたい。

4 座長及び副座長の専任

座長は増田聡委員、副座長は狩野淳一委員が選出された。

5 議事

座長の進行により、次第に基づいて、事務局から各議題の説明が行われ、その後、委員から意見等が出されてた。

議題（1）プランの中間検証について

事務局からプランの概要、策定経過、プラン策定後の建設業を取り巻く社会情勢の変化、プランの進行政管理と中間検証の目的、中間検証の実施方法とプラン後期の具体的取組への反映について、説明。

【増田座長】

・参考資料2の7ページの災害の発生状況の表があり、津波、豪雨、台風、地震などで建設業の方々が活躍していることは既に報道されているが、家畜伝染病発生時にも対応していることについて、何か補足等あれば。建設業界では、鳥インフルエンザ等がたびたび発生していることから、対応する体制が組まれていると考えてよろしいでしょうか。

【菅原代理】

・家畜伝染病については、鳥インフルエンザの埋却処分について、防疫協定を結んでいて、平成29年以降、対応している。何回か対応している中で、不都合な点も出てきて、昨年それについて協定の見直しを行ったところ。

【増田座長】

・これまでにないような人畜共通感染症がいずれ発生する可能性はあると思うので、こういった対応も重要になると思っている。

議題（２）基本目標毎の中間検証について

■基本目標 1

事務局から、目標指標である『高卒者の建設業への就職割合』と『建設業における完全週休 2 日制の実施率』について、達成状況、取組内容と成果、課題と対応について説明が行われた。

【有働委員】

・指標 1 の目標値 9 %以上となっているが、余りに多すぎても困るわけですね。適正な割合はどの程度なのか。

・高卒者について整理されているが、女子生徒について教えてほしい。

・女子生徒については、若者かつ女子ということで施策内容の（２）をどちらも満たしているので、そういう女子生徒にとって、魅力的であるとか建設業が選択肢に入るってことは重要と考えている。

【事務局】

・数値目標については、初期値が 8.6%というところから、まずは直近の目標として 9%を目指すという意味での目標値設定している。現状で 9.2%まで上昇している状況もあり、上方修正した目標を設定することも検討したが、コロナ禍ということもあり、他業種から流れてきているものや、建設業界における募集人員などの動向も注視していく必要あると考えており、今後 2 年間やった上で、高卒者の建設業への就職割合の 9%を上方修正すべきかどうか議論したいと考えている。

・女子学生の方については、施策内容（３）建設産業の戦略的広報において、Y o u T u b eを活用した入職促進支援動画を作成している中で、建築施工管理、左官の 2 業種は、女性の技術者や技能者に出演頂き、女子学生にもアピールできるような動画内容にしている。若者・女性の入職促進を継続して行っていきたいと考えている。

【増田座長】

佐々木代理から何かコメントがあれば。

【佐々木代理委員】

・架け橋サロンは主に土木系、建築系の学科において、特に一年生を中心に実施されており、将来の目的を持つという意味で、大変有意義な取組になっていて、各校で活用させて頂いている。

・就職については、やはり工業で建築土木系、農業で特に土木関係を学んでいる学校、総合学科で農業、工業を学んでいる学校を中心に、建設業関係へ就職している。

・昨今の少子化の中で、割合の方は 9%を維持するということであるが、生徒数がどんどん減少している中で、他の産業の方に流れていくこともあり、コロナ禍では本県では製造業関係に就職する生徒が多くなっている状況。

・就職については、親御さんの意見が強く出る傾向がある。危険な作業を伴うような業界というイメージが強いが、架け橋サロンの実績を見ると、建設業はこういう仕事をしているところを生徒の方に理解させた上で、目標を持たせると安心して建設業に進んでいけるといようなところが、大きいの

ではないのかと思う。今後普通科高校等も含めて展開していくとのことだが、ぜひよろしくお願ひしたいと思う。

【船山委員】

・働き方改革について中建協で 120 の各会員にアンケート調査を実施した。回答が約 60 業者、約半数の会員から回答を得た。その中で、賃金関係、キャリアアップシステム、雇用関係に対する回答についてお話をさせて頂きたい。

・『適切な賃金水準の確保について』という項目で、『どちらとも言えない』を含めると 85% が概ね適正水準と認識している。『不十分』の回答では、将来の受注確保に不安を抱えているため、対応が難しいという回答もある。次に『建設キャリアアップシステムの導入及び活用した技能や経験にふさわしい処遇』について、導入率が 36% 程度。導入に疑問を持っている会員も多く進んでいないのが現状であり、処遇面の改善まで進んでいないのが大半。これは協会としても大きな課題。

・技能者の月給制を原則とする雇用形態について、『どちらとも言えない』を含めると約 90% が対応しており、概ね十分といえるようである。ただし、企業によりばらつきが見られる一面もある。

・それから若手技能者に対するキャリアパス提示の促進について、全体的に見て一部は進んでいるものの大半が進んでいないのが現実で、不要と思っている会員や、十分理解していない会員を見受けられ、しばらく時間が必要。

・最大の問題点は、若手入職者がいないということ。『賃上げの促進について』は 60% 強が何らかの形で賃上げを行うと回答。賃上げ率は 5% 前後が多く、中には 10% 以上も何社かある。ただ、将来に不安を抱えて、賃上げをすところではないという回答もある。

・話を戻して高校について。

・仙台市以外の高校が定員割れしているという現実、それから工業高校・専門科目を教える学科が非常に減ってきている。なおかつ、定員割れしている。その点から、若い方々が建設業に入ってくるということは、かなり厳しいと思っている。

・そこで女性とはいうと、うちの会社にも女性の技術者はいるが、技術者は、ある程度専門的な知識がないと資格が取りにくく、できれば大学よりも高校を卒業した女性が専門的な知識を得られる環境を構築することが必須だと考えている。

・重機のオペレーターの女性の活用について、建機メーカーの方とも話をしたが、機械の操作がかなり簡略化され安全性もかなり上がっているため、そういった PR もしていきたい。オペレーター養成の助成も将来的には有効ではないかと考えているようである。私もそのとおりだと考えており、女性の雇用というのはこれから非常に重要な問題であろうというふうに思っている。

・CCUS を幾ら頑張っても、今キャリアアップに該当する方々が、40～70 代。その方々がこれから退職していく中で賃上げに繋がるかということ、企業としては年齢を重ねた労働者、技能者にはだんだんと賃金を下げざるをえない。若い技能者の賃金を上げようとするれば、高齢者の技能者よりも若手の技能者の待遇を改善する方向になると思う。

・その CCUS についても、今後どのような形で活用するのか、本当に利益のあるものなのか、を考えていかないと、我々企業にこれを導入する気持ちを促すのは難しく、私も今悩んでいる。

【増田座長】

・架け橋サロンっていうのは高校生と現場の技能者の方と学校の先生と他に誰が参加するのかと、あと動画の作成は専門業者をお願いしているのか。例えば、最近は高校生が自らとった方が面白い動画が撮れることもある。(TIKTOK とか) 高校生自身に作ってもらうこともあり得るか。

【事務局】

・まず架け橋サロンの参加者については、我々で学校を選定した後に、業界団体の方に講師として高校生に近い年齢層や女性など、話しやすいような技術者、技能者をご紹介頂く。その方にコーディネイターとして、我々と一緒に高校に行って仕事の内容、勤務形態、処遇など具体的な言葉で、話してもらう内容になっている。

・入職促進支援動画は県で予算を取りメディアの制作会社に外注している。こちらの出演者についても、業界団体の皆様から架け橋サロンと同じ選定の基準で、若い方や前向きに入職に対して考えて頂けるような方をご紹介いただいて、その方をモデルに実際の仕事の内容や、楽しかったこと、職務環境などをPRできる動画になっている。

【増田座長】

・高校生のレポーターに取材してもらってもいいかなと思う。

【伊藤委員】

・工業高校の校長会に参加することもあるが、高校は一流企業か進学させるのが一番の目標になっている。建設業に入職させることに力を入れてはいない。ところが埼玉の大宮工業高校と名古屋の愛知工業高校は先生が熱心で技能五輪に生徒を出してくる。そういうことから先生に説明する会も必要じゃないかと考えている。

・今回の普通高校と私立高校にも架け橋サロンを拡大することは良いと思う。工業高校に入った時には少なくともある程度、進路の方向性がある。ところが普通高校はまっさらなキャンパスであるので、建設業って面白いというのを伝える。わが社に入社したのも工業高校から1人で、あとは全部普通高校。

・就職率について、新卒は先生の指導などから他業界に入ったけど、そこは思ったほど面白い仕事じゃなかったということから、2年目で入る人が多い。高校の先輩から仕事の話を知っていると定着し、資格を取得するような存在になる。ですから、新卒1年目2年目の追跡をしてもらいたい。

・先生たちには、生徒たちの10年後によかったと思える業界を考えれば建設業が良いという話をしている。

・数値目標は増田座長が目標達成が分からないから数値化しようと言って始めた基準。

【増田座長】

・単純に言うとその1年2年で0.何ポイント上がったというのはそんなに重要じゃないが、例えば産業構造の中で長期的に低落していくとか、ゼネコン汚職があって建設業の人气が止まってしまうとか、そういうことが問題じゃないかということで、数字的に長期的に追いかけていくというのが重要だということで提案した。

・全体で言えば宮城県の産業構造の中で建設業が占める割合とかです。ね。総労働者に占める建設業者の割合から見て、高卒者が一定水準で入ってきて、自分の勤めたい所とミスマッチを起こさずに就職できる状態が良い。増減が激しいといろんな問題が起きるので、現状プラスアルファで目標を設定し、そこに対応していくのが良いのではないかとということで提案したと思う。

【有働委員】

・安定しているというか、大きく変化していないということが大事ということですね。

■基本目標2

事務局から、目標指標である『施工時期の平準化率』について、達成状況、取組内容と成果、課題と対応について説明が行われた。

【増田座長】

- ・凸凹を均すことで、人やものを有効に使えることで生産性の向上に繋がるだろうということ。繰越してしまうと翌年の年度頭まで稼働する状況になるが、それはあまり良くないので計画的に考えましょうということ。ですから、数値が高いからいいというわけでもない。
- ・一般の市民の方からは『何で年度末になると工事やってるんだ。』とずっと言われて対応しているので、重要なことだと思うが、それ以外も含めて、生産性の問題で、何かご意見等があれば。

【関委員】

- ・東日本建設業保証で把握している状況を見ると、この2、3年で2月3月に契約する件数が随分増えてきたという印象。以前は4月に入ってから契約するというケースが多かったが、その山が2ヶ月ほど前倒しになっているというのが、保証している現場の人間としての実感で、施策が随分進んでいるなどという感想。ちなみに国交省でもすでに平準化率の目標はされていて、それはもうすでに宮城県としてはクリアしているという理解でよろしいか。

【事務局】

- ・目標値に対してはクリアしていて、全国でもかなり平準化率は宮城県は高い状況。

【菅原代理】

- ・平準化率は高い方が1年を通して繁忙期、閑散期がないので、企業としては非常に良い。一方で宮建協では主任技術者とか監理技術者、技術者を抱える会社が多いが、工事目的物の引渡月がいつかというのが重要だ。例えば検査があればそのための準備が必要であったりして、どうしても年度末(1月～3月)になると残業が非常に増えている。できればその施工時期の平準化とともに、会計制度の問題があると思うが、年度を通して引渡時期が来てくれたら非常にありがたいと思っている。

【伊藤委員】

- ・ほぼ同意見。
- ・ここまで徹底して取り組んでいることを今日よく分かったのでありがたい。
- ・以前はわざわざ寒く凍るような時に外構を施工したり1～3月は非常に忙しく、一方で4～6月はヒマであった。それがなくなっただけでも以前と違って、おそらくほとんどの専門工事がこの平準化したことによって、倍の稼働ができるのと一緒。
- ・参考資料2の平準化の図で平準化率の低い市町村には県の方から声がけ指導はできないものか。

【増田座長】

- ・参考資料2のパワーポイント29枚目の平準化率の低い市町村に何か特徴あるのか。できない理由とか。

【事務局】

・参考資料2のパワーポイント30枚目の宮城県域、県全体の0.85というのが我々の指標として扱っているもので、その下は発注機関ごとに分解したもの。宮城県は繰越型で年度末にまた上がっていく形だが、他のものは山形で通常パターンに近いような形になっており、4月から6月の稼働計画が低くて、秋ぐらいに高まって、年度末に完了する。

・これは本来単年度会計としては、適正な形であると思いますが、宮城県とほぼ同等規模の工事件数というその他の市町村の部分（ピンク）が人口10万人未満で大崎市や石巻市以外の市町村ですが、全体の平準化率と差が開いてきている。それらの市町村の平準化率が低いというのは、単年度の中で発注して完了しているという部分で適正ではある。宮城県自体が繰越に依存した平準化であるが、繰越さない中でやってくるには債務負担行為の設定が有効。市町村では債務負担行為の設定について、あまりノウハウがないというところもあること、2か年にまたがるような大規模の事業もなかなかなく、事業規模からしてもなかなか債務負担行為を設定しにくいというところも平準化率が上がらない理由の一つにあると考えている。

・市町村の平準化率をしっかりと上げていくということも、宮城県域の平準化率上げていくうえで非常に重要なので、そこは情報交換、我々の取り組みをしっかりとお伝えをしていくということもやりながら、ご理解をいただきながら市町村にも取り組んで頂きたいと考えている。

【増田座長】

- ・他にご意見等ありますでしょうか。
- ・なければその他のDX化等は資料のとおり進めて頂く。

■基本目標3

事務局から、目標指標である『売上高経常利益率』について、達成状況、取組内容と成果、課題と対応について説明が行われた。

【菅原代理委員】

・参考資料2の20ページの上のグラフに示されているように、震災前は経常利益率がマイナス。グラフは平成18年からだが、それ以前に建設投資額が公共と民間合わせて1兆円を割り込んだ頃からマイナスになっていて、それとあわせて公共事業で一般競争入札が導入され価格競争が激化したということから一気に利益率は落ちた。

・一昨年度は、資料1のグラフにあるように1兆円を少し超えるぐらいであるが、おそらく今年度（令和4年度）には建設投資額が1兆円を切るのではないか思っていて、今後また経常利益率がマイナスにならないかと宮建協では心配している。

・ただ、震災前との違いは、例えば品確法が制定されるなど、発注者がきちんとその受注者に対して利益が出るような発注の仕方をしようとか、いろいろと制度改革をしていただいたおかげで、少なくとも公共事業は何とか利益が保たれていると感じている。民間工事を中心に受注されている企業の皆さんにとっては、建設業法などの法律で民間の事業者まできちんと国交省のいろんな施策が行渡ることがまず重要だろうと思う。一番のカンフル剤は、建設投資額を上げることだが、それはなかなか難しいので、その中でどうやって利益を上げていくかという、生産性の向上など1人当たりの付加価値額を上げていくというのが必要と感じている。（人も減っていくので）

【増田座長】

・参考資料2の19ページのパワーポイント38枚目。赤で書かれている宮城県の数字だけが、建設業者数が増加しているが、これは、大都市である仙台を抱えているということで、まだ新規参入があると理解すればよいか。

【伊藤委員】

・一社破綻して無くなるとその従業員が別に会社を興して、二つに増えるというパターンがある。だから増えたっていうより細胞分裂みたいなもの。

【菅原代理】

・震災によって復興需要がものすごく増えたので、他県からの参入や新しく起業して公共事業を請けようとする会社が増えたというのもあると思う。もちろん分離をしたっていうところもあると思う。

【増田座長】

・震災終わっても増え続けているのは、さっきの破綻の処理みたいなものがあるっていうことでしょうか。『のれん分け』というよい面もあるのかもしれないが。

【伊藤委員】

・厚労省と情報交換したときに、『今求人どんどん増えていいですね』って言われたが、全体の仕事量が85%に減り、人は7割まで減少して人が足りないから求人しているが、全体として萎んでしまっていると話した。

・左官業では、4年前から去年の国勢調査までで7万5000人いたのが5万9000人。多分年間5000人ずつ減っていった次の10年で誰もいなくなってしまうのではないかとというぐらい人が減っている。最後3万人で止まるだろうと予想はしているが、そのうちの半分はおそらく外国人になる。

・これは左官業だけじゃなく、全職種ともそういう状況。

・国交省のアンケートをとっても回答率が低くそのデータというのは非常に良い結果しか見えない。大変なところはアンケートに回答していない。

【増田座長】

私ども大学でも震災復興企業アンケートを行っているがだんだん回収率落ちていく。難しい。

【伊藤委員】

・キャリアアップについて、この間2月24日の国交省とのリモート会議において、今後のCCUSについて、専門工事においてはほぼ強制的にいわゆる好んでやっているわけではなく、地場の事業者においては達成率が低い。

・今登録者が技能者309万人のうち107万2000人で33%の達成だが、半年前から全然数字が上がっていない。ほとんどは大手のゼネコンと付き合いのある所は強制で入られている数字で、それがこれ以上進んでない。他県の建設業協会等ではキャリアアップにはもう携われないとの意向のところもある。宮城県としてはどうなのかを聞きたい。

・時間外労働の上限規制が24年の4月から始まる。現状ではすぐに月45時間に達してしまうような状況。賃金上昇3%という話もあるが絵に描いた餅になってしまうのではないかと。上限規制を達成するためにどういう現象が起きているかという点、平均年齢の60ぐらいの会社が多いが、法を犯してまで事業を継続したくないということで廃業する会社が出てきている。これも1回ちょっと問題にして欲しい。

【増田座長】

・なかなか国と地方の現場が考えていること、意図と実際がずれてしまっている。

【伊藤委員】

・週休2日は、県の工事だけでなく民間でも進めているが、週休2日にしたけども土曜日でも作業した方が給料が良いということで転職する人がいて、結局変わっていない。また、月給制にしていくと今は日給月給が多いので、休んだ分も賃金を出さなくてはならないことになり、支出が増えるのもすごく苦しい。現状はそういう状況。

【増田座長】

経営者としての苦労もあるということ。

何か働き方改革についてアイデアはありますか。

【伊藤委員】

国交省に言ったのは、建設業のイメージが悪いのであれば、朝 9 時から 4 時半までの勤務体系に変えれば、イメージが大分変わる。

これをどこの県だけではなくて全国でやってくれたら、大分違うという提案をしたが、民間までそれをやれないということを言われた。

【増田座長】

モデル事業か何かでやることも考えられるかもしれない。少しだけやっても効果ないかもしれないが。

■基本目標4

事務局から、目標指標である『建設業団体のBCP策定率』について、達成状況、取組内容と成果、課題と対応について説明が行われた。

【座長】

・本当はBCPを作ると儲かるっていう、ことのはずなんですけれども。
・なかなかそういうところまで、繋がっていかないっていうことがあります。このセミナーで言うとその成功事例とか、こんな新しい受注があったとかそういう話も出てるんでしょうか。

【事務局】

・昨年10月にセミナーを開催して、宮城県の実質モデルをご紹介したほか、石巻市内にある建設企業の役員の方に講師になっていただきまして、会社でのBCPの策定内容と、毎年の訓練とか備蓄とか、参考となる取り組み状況をご紹介いただいたセミナーを昨年10月になりまして、受講者の多くの方から、参考になったという声を頂いている。

【増田座長】

・セミナーぜひまた続けて。
・地域の自主防災組織の中とうまく連動できれば、立地している地域との関係の中で、支える部分もあるし地域に支えられるようなものもあり得ると思っているので、ぜひ普及していくことを考えていただきたい。
・この補助金にどんなところが公募するのかなということも見ていきたい。

【八木橋委員】

・みやぎ建設総合センターでも独自でBCPのセミナーを3年ぐらい実施しているが、コロナ禍の関係もあって年々参加者も減っている状況で、BCPというものがどういうものかというものが、まだ浸透してないように感じる。『災害対応計画というのがあるからそれでいいじゃないか』というようなご意見が多くて、災害時に会社を持続するという観点がどうもピンとこない方が多いということで、BCPについて浸透させるような方策を考えていきたいと思っている。

【増田座長】

・今回コロナで結構いろんな支援金がたくさん出てしまっている中でBCPという議論は、時期が悪かったかもしれませんが、単に自然災害以外にもビジネス継続の面があると思いますので、どうすれば参加していただけるのか、ぜひみやぎ建設総合センターの方でもご検討いただいてまた新しいタイプのセミナーをやっていただければと思います。

【吉田委員】

・仙台市の取り組みとしては、やっぱり建設業の団体さんの意見交換時に非常に問題化している部分については、その担い手の確保ということでもありますので、仙台市としましては、昨年11月に開催された

『みやぎ建設ふれあい祭り』で、仙台市内の全小学校にチラシを教育委員会を通じて配布させていただいた。その結果、現場で非常に盛況（最後尾が見えないくらい）となって、親子連れでにぎわう状況があって、担い手確保は小さい頃から親御さんの理解が建設業に対してあるという部分が非常に重要だったということもあったので、『みやぎ建設ふれあいまつり』についても継続してまたご協力させていただきたいと思っている。

・あと、働き方改革の推進ということで週休2日工事については、なかなか今まで件数も出てこなかったんですけども、R5年度については、営繕工事も含め原則すべての工事を週休工事発注者指定型で発注するという形で注力して頑張っていきたいと思っているので、今後も意見交換などご協力頂きたい。

【本田委員】

- ・労働局としては担い手の確保・育成の部分でかかわっていくことになる。
- ・コロナの影響があったが、だんだん収束してきたということで、経済活動の再開、それから求職者の就職活動再開というところで、求人倍率も緩やかではあるが改善の状況が見えてきたところだったが、直近ではウクライナ情勢、原油高、円高など、不安定要素が出てきており、そういった要因で悪化してくることも考えられ、今後注意深く見ていく必要がある状況。
- ・建設業はじめ人手不足分野と言われる運輸、医療介護などに関して、各ハローワークで専門窓口を設けており、事業者や求職者の方も相談していただける体制も整えているので活用して頂きたい。ハローワークに求人申し込みをしていただいた事業者様には、業種の個別面接会や説明会をハローワークで企画して行っているの、ご希望がある場合はお気軽に近くのハローワークにご相談いただければ、そういった求人の充足サービスなどを積極的に取り組んでいきたいと思っているので、ハローワークを積極的に活用していただければと思っている。

■その他

【伊藤委員】

・『みやぎ建設ふれあい祭り』について、去年はうれしい誤算となったが、今後毎年やる方向なのか確認したかった。それによって他のイベント日程を変更する。今年（令和5年度）はやるでしょうから、来年以降もどうなのかお聞きしたい。

【事務局】

・来年度のまず予算も確保できましたので、開催の方向で調整をさせていただきたいと思っています。また、我々としても非常に有効なイベントかなというふうに思っているの、できれば継続していきたいと思っていますので、ぜひ会長の方でもその辺の日程の調整を含めてお願いしたい。

【増田座長】

・委員の皆さんから出された意見を、もう一度整理して次期プラン作りにつなげていきたい。女性の入職についてや、普通科高校の生徒にどうやって関心を持ってもらうか、高卒での入職だけでなく、専門学校や大学を經由して技術者になる人もいると思うので、幅広く将来建設業に入職してもらうかということも考えていきたい。

・それでは、議事を事務局へお返しする。

6 今後の懇談会の進め方について

事務局から第4期プランの策定に向けて令和6年度に懇談会を複数回開催予定であることが説明された。

7 その他

特になし。

8 閉会

以上